



ひめまつ

40

武庫

宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

ひめまつ 目次

(第四十号)

表紙絵……………島田武幸

題字……………石川木魚

写真……………写真部・新聞部

巻頭言

文化都市・学園都市としての発展を……………校長 須賀 淳……………1

発展するわが学園……………4

※ 全員参加の生徒会を（生徒会会長に就任して）……………高橋 佳子……………6

※ 大切な事前の準備（任務を終えて思うこと）……………小田 弘子……………7

へる

明日に向けてー今、私にできることー……………8

「実現への第一歩」……………三年 小島 真美

「家庭革命に立ち上がる」……………二年 平石 仁美

「世界の人々の幸福願う」……………二年 大塚 靖子

「難民救済に思うこと」……………一年 糸川 季江

「今、私にできること」……………一年 河上さおり

「出来ることから実行」……………一年 内田 広美

*心に強く響くもの(校内読書感想文入賞作品)……………15

「紀ノ川」……………三年 山崎 幸子

「宮本武蔵」……………三年 石井真由美

「十七歳の遺書」……………三年 塩川 玉江

「人間失格」……………二年 大町 純代

「車輪の下」……………二年 奥山 緑

「次郎と共に」……………二年 三浦亜希子

「きけわだつみのこえ」……………一年 高岩小百合

「田園交響楽」……………一年 渡辺 理恵

「夏の花」……………一年 大栗 照代

◇作品集……………27

詩

〔三年〕青山みどり・時庭 幸枝 他

短歌

〔三年〕高橋 真美・倉沢 文子 他

俳句

〔三年〕小山 幸子・小林 栄子 他

☆あとらんだむ

(二年) 小貫 葉子・町田 智子 他

月関西・四国・大洗・日光の旅

(三年) 大友 康子・庭瀬 恵美・浪野美恵子

(二年) 伊沢 雅子・小曾根正美

(一年) 大登 晴美・日野辺知子・高橋小百合・青木 清美

招待席

伊沢 雪夫・荒牧 純一・和久 誠・角海 武・河住 玄

◆わがホームルームの紹介

◆委員会・クラブ活動この一年(風紀・美化・編集・放送委員会・文化・運動部)

◆学園ニュース

◆学友会の奉仕活動

◆告知板

附中コーナー

中学一年生を担当して 長 明子

立志式・生徒作文他

◇六十年生徒会報告

●各種成績・就職状況

●職員住所録

●編集後記・奥付

●校史と校章

学園スナップ



「蛍の光」に送られて……卒業式(3月)



お元気でね、と卒業生を送る会(3月)



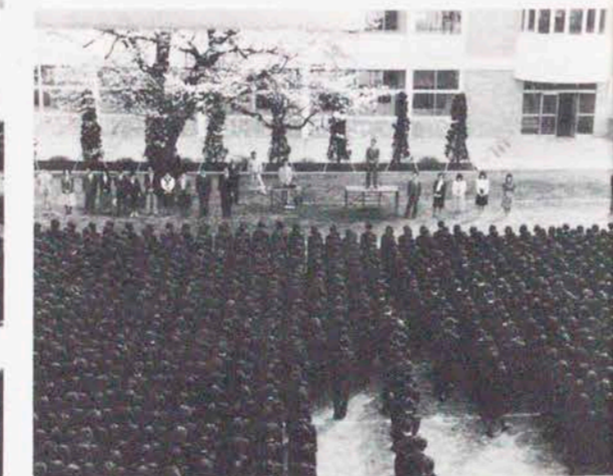
色紙を贈られる中学の立志式(1月)



立派な作品でしよう、食物検定(1月)



緊張気味です、中学の授業参観(4月)



さくらが満開の校庭では対面式(4月)

宇都宮短期大学附属高等学校

校歌

作詩 菅谷徳次郎
作曲 野原幸夫

ふたらのたかねをはるかにおおぎ
にわもにしげれるひめまつこまつ

まなびのみちすじはさきくあれと
かなわらぬみちさおはらよきあすよと

かたみにちかいていそしみはげむ
かたみにいかわいていそしみはげむ

おまなびのこころをこころにうたけ
あわれとめうでたこのまなびや

校歌

一
二荒の高嶺を 遙かに仰ぎ
学びの道筋を まさしくあれと
かたみに誓いて いそしみ励む
教えの庭こそ げに尊けれ
あわれ尊 この学びや

二
庭面に茂れる 姫松小松
変らぬ操は 千代万代と
かたみに祝いて いそしみ励む
学びの庭こそ げに芽出度けれ
あわれ芽出度 この学びや



学校祭の大食堂は大入り満員(11月)



こちら仲よく童心にかえって(11月)



見てくださーい、と呼び込み屋(11月)



腕力ならまかせて、腕角力大会(11月)



学校祭を飾るバントワラー(11月)



高原での楽しい一刻、大笹牧場(5月)



春の波にたわむれる、大洗海岸(5月)



ただいまワープロ猛練習中(10月)



まず伊勢神宮参拝の修学旅行(5月)



しぶき上げ夏を満喫のプール(7月)



味はいかが、調理科父兄試食会(9月)

巻頭言

文化都市、学園都市としての発展を

校長 須賀 淳



東京から百キロ圏内にある宇都宮は、たいへんすばらしい環境に恵まれています。きれいな空気においしい水、そして最近失なわれつつあるとはいえまだまだ緑が豊かで、潤いのある生活とこまやかな人情など、地方都市としてすぐれた特色を備えています。しかも

二十一世紀は、地方自治や地方文化の振興を目指して、地方の特色や個性を重視する、地方

の時代であるといわれています。今後ますます産業経済の変化、情報化の進展、交通の発達などにより、東京など大都市における居住環境の悪化や過密化が進むにつれて、地方の生活の再認識—ふるさと再発見—、地方定住の傾向が強まってゆくでしょう。



会長
橋本佳子



副会長
田中百代



第五回校内合唱コンクール(11月)
名誉をかけて合唱コンクール



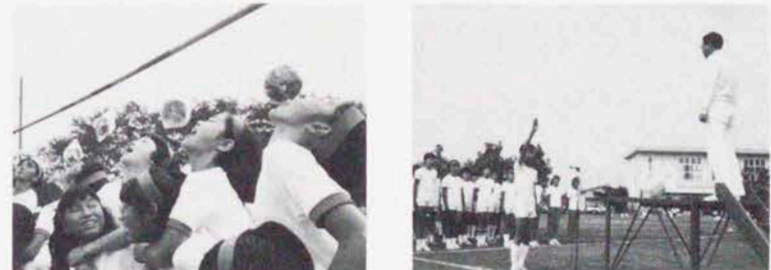
会計
高瀬綾子



副会長
高橋悦子



会計
沼尾宏恵



あもう少しよ、パン食い競争 (10月) 初の中学運動会で代表宣誓 (10月)



庶務
福田有里



庶務
山越悦子



卒業をひかえ中学の記念撮影(11月)



議長団
岡本勝美



議長団
木嶋 守



議長団
沖 妙子



議長団
中岡浩美

そうした二十一世紀の地方の時代に向けて、私たちのつとめは、このすばらしい宇都宮という地方都市をさらにより素晴らしいものへと、はぐくみ育て、次の世代へ引き継ぐことだと思います。それには、郷土の愛着心や地域の人々との連帯感を強めて、緑豊かな文化都市・学園都市として大きく発展させることが大切だと思います。

これからの教育は、そうした時代と環境にふさわしい人づくりこそが大きな課題です。従来のようなとすると中央指向に流れがちな個人主義的な教育から脱皮して、地方に立脚した創造性に富み、正しい勤労観をもった社会的連帯感や奉仕の精神に基づく社会性を備えた人間を育成することであると思います。

そして先ごろ栃木県教育委員会が二十一世紀に向けての栃木県における教育・文化・スポーツの振興方向を明らかにするため策定した「栃木県教育振興長期ビジョン」に描き出されている人間像、すなわち「恵まれた自然を愛護するとともに、人間味あふれる郷土を愛する心情を持ち、道義に厚く、地域社会における人と人との心のつながりを大切にし、勤労や奉仕を尊び、しかも積極的に他に働きかけ、未来をたくましく切り開くことのできる人間」の育成に寄与することがこれからの宇都宮が文化都市、学園都市として発展する大きな方向であると思います。

宇都宮は、二十一世紀においても、県都として、商工業の中心として、北関東第一の都市として躍進を続けることでしょう。しかし願わくは、わがふるさと宇都宮が、陽光と空気と

緑だけはいつまでも昔のままであってほしいと思います。「山は青きふるさと、水は清きふるさと」、宇都宮から望む日光の山々の青さは永遠に変わりありません。心の安らぎを覚える宇都宮、ふるさと宇都宮を大切にしようと呼びかけは、いられません。

宇都宮市では、このほど40万都市となったのを契機に、ふるさと宇都宮を見つめ直し、二十一世紀に向かつて、都市環境、産業、文化等これからの都市づくりの方向はどうあるべきか、広く市民の人たちとともに探ってみよう、と「二十一世紀の宇都宮を考える、明日を創る、140万都市への提言」なる冊子を発行しました。

各界からのメッセージ、座談会、シンポジウム等のほか、学識経験者や宇都宮に関係の深い方々のそれぞれの立場からの提言を掲載しています。

その中で、本校の須賀校長先生は、文化都市・学園都市として宇都宮を位置づけ、地方の特色や個性を重視する、地方の時代、にあって、文化都市・学園都市としての発展をはかるべきであると提言しておられます。

ここにその内容を転載させていただきました。

(編集部)

【校長略歴】 宇都宮高校、東京大学卒業、昭和二十四年文部省勤務、文部大臣秘書官、文化財課長、教科書課長、初等教育課長等歴任。昭和四十三年須賀学園に戻る。
現在、須賀学園理事長、宇都宮短期大学長、同附属中学・高等学校校長、宇都宮大学教育学部講師(教育財政学担当)、文部省大学設置審議会委員、栃木県私学審議会委員、栃木県教科書選定審議会会長等。

短大に須賀正記念ホールが完成



近代的な設備を誇る記念ホール

四階建ての新校舎も建設 音楽科の定員増や学科増設のために

躍進するわが学園に新しく音楽の殿堂として、すばらしい須賀友正記念ホールが完成しました。

友正先生は、本学園の創立者で初代校長の須賀栄子先生の遺業を継ぎ、理事長、短大校長、附属高校長として学園の今日の基礎を築かれました。

また、全国私立中学高校連合会理事や栃木県私立中学高校連合会長として私学の振興に尽力されましたが、惜しくも病により昭和五十七年九月一日にお亡くなりになりました。

生前の功により勲三等旭日中綬章を受けられています。

この記念ホールは友正先生のご遺徳を長く顕彰するために、昨年に短大の構内に建設されたもの。すでに学園内外の催しや演奏会などに利用され好評を博しております。

スマートな外装のホールは、建物の総面積四八四平方メートル、ステージの広さは幅一七メートル、奥行き一〇メートル、収容人員五百八名。音響や照明設備はNHK技術研究所がその設計指導にあたりました。

短大の音楽科の定員増や学科増設に備えて、ホールに接続して建設された新校舎は、鉄筋コンクリート四階建て、延べ面積一九八六平方メートル。

一階学長室、教官室、事務室、会議室。二階大会議室一、講義用個室五。三階普通会議室二、研究室二。四階特別大会議室（百五十名収容）となっており、冷暖房完備です。



学科増設に備えて新築された短大校舎



新図書館

高校には新図書館や 部室棟が完成

高校では待望の新図書館が本館一階にあった旧図書館の廊下をへだてた西側にこのほど完成しました。

総面積三二六平方メートル、座席数は百二十席で、スペースも広くて明るく清潔です。

また、本館西棟の南側に鉄筋四階建



部室

ての売店・部室棟が建設されました。

総面積二八〇平方メートル。一階はパンや牛乳等の売店に、また二階から四階までは十室の部室ができ、各部活の拠点として利用されることになりました。

持てる力を十分に出したと思う。素人集団が、他校の驚異の的にまで成長できたのは、みんなが一つの目標をもってチームワークを大切にした結果だと思ふ。残念ながら、途中で部員に変動があったが、一度、男子バレー部の雰囲気を知った仲間はみんなこの勝利を喜んでくれた。

水泳部は、チームワークをモットーに、一人一人が、自覚と協調性、自主性を大切に、運営しています。水泳という個人競技の中にも、部活動のもつ独自の良さをはぐくむための活動をしようと、全員一丸となつてがんばっています。そして、上位入賞や各自の持つ目標を達成しようと、毎日つらい練習に耐えています。シーズン中は、内容的にも、量的にも、全員の力に応じたハードな練習。シーズンオフにはシーズンにそなえ体力をつけ、鍛え抜いています。

今年の大会においても、各自が満足のかかる試合をし、そしてその中にも全員が向上心を忘れることなく、次の大会に向け努力をしました。水泳部では、練習内容についてや運営について、部員が話し合ひで決め、先生に意見やアドバイスをもらう民主的な形を取り、自分達の意見や自覚で、理想的な部活形式をしています。そのためにも、上下関係や横のつながりを大切にしたり、時には先輩後輩という関係を離れ、お互いの悩みなどを相談したりするミーティングや、冬期一度位レクリエーションをし、親睦を深めています。そのかわりに、練習中はきびしく指導したり、し合ったり、各自の持つ目標達成のため真剣に協力し合ひながらも、ライバル同士であることを忘れず、向上心を持ってやっています。今は三年生も部活を引退し、指導的立場に立ち、来シーズンに向け、一、二年生の指導に当たっています。

水泳部

現在、水泳部は、男子三年生二名、一年生三名、女子三年生三名、二年生四名、一年生六名の計十八名が齊藤浩二先生と、吉田一弘先生の御指導を受けながら活動しています。

最後に、後輩たちは、高橋先生と共に早く「勝つ喜び」を知って、宇短大附高男子バレー部の伝統を引き継いでいってほしいと思ふ。(部長・飯面一昭)

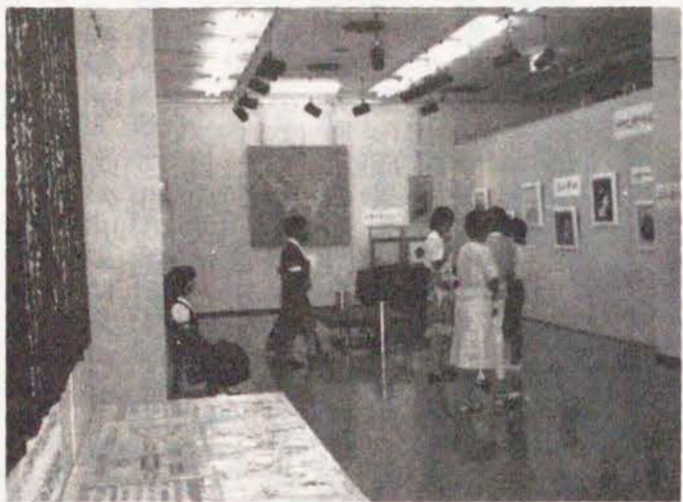
今の三年生が、水泳部から初代の卒業生になるわけですが、初代ということで、何もかも手さぐりでやってきて運営には困った事や、大変だった事がたくさんありました。でも、チームワークを忘れずに、三年生の残したものを受けついでほしいものです。そして今までも、他の部に引けをとらないような立派な部にして行くためにも、これからも先生方の御指導を受けながら、ますます充実した部活形成をして行きたいと思ひます。

(部長・水野 正明)

学園ニュース

みやげにちぎり絵贈る

第三十三回全国高等学校家庭クラブ研究発表会



家庭クラブ全国大会

去る八月七日から三日間にわたり、全国の高校家庭クラブ員、成人会長、顧問教師等約二千名を迎えて、宇都宮文化会館大ホールで盛大に開会、数々のすぐれた実践研究の成果が発表され、大会は成功に終結したといえよう。大会は、八月七日(第一日)「新しい世界にはばたけFHA国際青年年を迎えて」と題し、文部省初中局視学官高部和子先生のお話しを聞き、FHA座談会が持たれた。また、本県教育研修センターの鈴木先生を囲んで、「家庭クラブ活動を通して得たこと」のテーマのもと全員分科会が運営され、レクリエーションを含めて、楽しく充実

した時を過ごした。八月八月(第二日)はホーム・プロジェクト発表。北海道から九州の広域にわたり、代表七名により、実生活に密着した内容が非常に多く、研究動機としての着眼点が単純明快であり好感がもてた。大会委員長、河村卓治先生が、世の中の進歩のなかで、忘れてはならないのは、心の豊かさではないか、との家庭クラブ活動の本旨を投げかけたことも印象深く囁みしめ得た。八月九日(第三日)は昨年に続いて、共通題(家庭経営、住居に関するもの)のもと七校の家庭クラブから発表がなされた。社会生活を中心に論点が展開



され、幅広い家庭科学習の一端が披露された感がある。
その後、レクリエーション、講演会を開き、三日間の貴重な時間は、全国家庭クラブ員の友情と団結の輪を一層大きく拡げたことであろう。
本校では、家庭クラブが、受付、案内、研究展示の部門を担当、日常のクラブ活動の成果を展示し、好評を得た。また、土産用として製作した葉書の「ちぎり絵」は、県木の「とちの葉」と足尾の高山植物「庚申草」をデザイン化し、多くの来県の人達の手に渡ったことと思う。

テーマは皮染め

・手芸実技講習会開かれる・

恒例の高文連手芸部会主催による手芸実技講習会が、本年度も五月三十一日、本校被服Ⅲ室で開催されました。今年の教材は牛革ベンケース。講師として、あさみ会より横堀一枝先生、横堀せつ先生をお呼びしました。「皮



片染め講習会

染め」という新しいテーマでしたので、県下の各高等学校から、生徒四十三名、先生十九名の計六十二名と、多くの参加者を数え、部屋がいっぱいになってしまふ盛況ぶりでした。
皮に図案を書き、型でうちぬいたり、モテラ（皮に模様をつける道具）を使って、細かいところまでいねいに模様をつけます。そして、専用の絵の具で色づけをしていくわけですが、デザインにも皆、自分なりの工夫をこらし、

色の作り方も、多色をませあわせるなどして、それぞれに特徴のあるすばらしいものができあがりしました。ファスナーをつけ縫製をし、完成した時には皆、満足感でいっぱいだったようです。この講習会は、独学ではなかなかできないものを取りあげ、毎年好評を得ています。場所や人数など限界もあるので、各校の代表者にしか受講してもらえないのは大変残念なことですが、代表者が各学校へ帰って、ぜひともクラブ員たちに習った技術を伝え、広めていけたら……と考えています。来年はどんな講習会を開いてもらえるか、楽しみです。

足利学校に住時偲ぶ

・家政科後援会の研修行わる・

今年度の研修は、両毛地区の足利学校から上毛地区の桐生織物センター、やぶ塚（三日月村とスネークセンター）、太田の呑童さま、分福茶釜の茂林寺、足利の栗田美術館という一泊二日の

ろいろと気を配って下さるので、皆さん恐縮しながらも、名添乗員”の声が出る程でした。

『桐生織物センター』

群馬県入り口の桐生市では織物センターを見学しました。千二百年の長い歴史と伝統のある桐生織物の商品を一室に展示し、一隅には大型織機が並んでいて、作業順序を見学できるようになっています。少憩ののち、ただちに次の目的地へ向かいました。お昼から出発したので第一日目は、このあと一路、宿泊地のやぶ塚へ。

『やぶ塚温泉』

ふせじま館に落ちつき、ただちに入浴して汗を流したあと、一室に集って会食前に研修に入りました。菊地顧問さんの司会で、館野さんが同和問題の概要をやさしく、わかりやすく話して下さいました。館野さんは野木町の役場に勤め、昭和五十四年から同和問題と取り組んでいる方です。そのあと和久先生から、学校並びに生徒たちの現況について説明があり、



研修旅行 足利学校

旅で、参加者は十八名でした。

この日、七月二十七日正午、学校を出発しました。当日になって急に仕事の関係から出席できなくなった副会長の太野幹夫さんを除いて、あとは予定どおりのメンバーでした。今回はなんとか二十五、六名の参加者を……と思いき皆さんに声をかけましたが、残念ながら目標には達しませんでした。しかし、今回新しい顔ぶれも加わって和気あいあい、車内はスタートと同時ににぎや

かになりました。会長の河田さんから後援会を代表してあいさつがあり、つづいて学校側から戸室が家政科の近況、今回の研修の目的などをお話しているうちに、早くもクルマは最初の目的地、足利学校につきました。

『足利学校』

すでに皆さんご存知のとおりですが、この足利学校はわが国三大学校の一つといわれた平安時代初期の建立になるものですが、明確な定説はなく、記録上明らかになっているのは室町時代中期以降で、永享十一年（一四三九）に修理されたことが記されています。

最盛期には全国から生徒三千人が集まっていたそうです。敷地内は樹木が多く、涼しい影をつくっており、そこに立たずんで一同往時を偲びました。隣接の小学校では目下、史跡整備事業の一環として発掘調査が行われています。

クーラーのきいた車内にもどり、いよいよ群馬県へ。会長さんが飲み物や食べ物から座席のすわり心地まで、い

ますます内容、施設ともに充実している本校を紹介していただきました。さらに、それにつづいて菊地顧問さんが社会問題をとり上げ、免田、白鳥、松山、徳島ラジオ商事件など、裁判を通しての無罪と無実の相違などや、人生に大切な蓄財、本当の意味で好かれ信頼される先生になってほしいなど、父兄側の要望なども出て、大へん成果のある研修になりました。会食では一同そろって親睦とコミュニケーションをはかりました。

第二日は、午前八時三十分の旅館を出発して、近くの三日月村とスネークセンターを見学に参りました。

【三日月村とスネークセンター】
笹沢佐保の「三日月紋次郎」の小説で一躍売り出した上州三日月村は、飯空のものなのでしようが、作者の笹沢佐保の設計でやぶ塚温泉の小高い丘の上に作られたものです。「赤城山を背景に、前には関東平野から遠く秩父連山を望む、群馬県やぶ塚温泉内の丘陵に、江戸時代後期の時代考証に基づいて、当時の景観、雰囲気、日常生活と風俗

を再現するもの」というのがパンフレットに記された宣伝文句ですが、すべて食べたり、冗ったりするお金は「文」（もん）と昔のものだけに、建て物や、人形とあいまって時の流れが逆転した感じですか。こんな所で、一刻をのんびりするのの旅の楽しみでしょうか。

そのあと同じコースにあるスネークセンターを見て回りました。

【太田の呑童さま】
呑童さまの名で親しまれ、栃木県からも多くの方がお詣りに行きますが、一同そろって参拝しました。学校の繁栄、家業の繁昌、自分の健康、等々それぞれ祈願する内容も豊富です。本堂前で和久先生のカメラにおさまって記念撮影をしました。

【茂林寺】
館林の文福茶釜で知られる茂林寺は、呑童さまからすぐ近くです。童話「文福茶釜」でおなじみのこの茂林寺は、応仁二年（一四六八）に青柳城主赤井正光の開基、大林正通禅師の開山にな

る曹洞宗の名刹です。まず山門をはさんで本堂までの両側に、ぞろりとユーモラスなタヌキの像が並んでいるのは思わずふき出してしまいました。本堂に上がって宝物を拝見したのち、食堂は市内でもおいしいということまで有名なうなぎ屋に行つて、うなぎでスタミナを補充したのです。

さて、このあとは一路栃木県へ向つて帰路につきました。

【栗田美術館】
足利をすぎ佐野へ行く途中にある栗田美術館が最終コースです。ここは日本で初めて作られた磁器といわれる伊万里の宝庫ともいえるでしょう。

二万坪（六万六千平方尺）の景勝の地に本館、歴史館、陶磁会館が並び、緑の松林が広々とつぎすばらしい環境にあります。パンフレットには「数千点の伊万里を所蔵する世界最大の陶磁美術館」とありましたが、猛暑で目のくらむような戸外から一步内に入ると、温度、湿度を調整した展示室には優雅で目を奪われる作品、それも国宝級がずらりとあつて、まさに幽幻の世

界に引きずり込まれる感じでした。親切な案内人の説明で各室を見て廻りました。

バスは栗田美術館から学校へと帰路を急ぎましたが、全コースなんの事故もなく、また予定より早く午後三時には学校に到着し、解散いたしました。

なお追記になりますが、この研修に参加した副会長の小林宏さんは、十月十一日、急病のため栃木市の自宅近くで倒れ、急救車で病院に運ばれましたが、意識をとりもどすことなく死別され、十二日に葬儀が行われました。研修の席では、フェンス会社の社長として、今後北関東一円に出先きを設けて社業の拡大をはかるのするなど、積極的な方針を語り、元気にカラオケに打ち興じていただけに、私ども一同ただただ驚くばかりでした。心からご冥福をお祈り申し上げます。

【参加者氏名】（敬称を略します）
菊地良平（顧問）、平泉忠之（同）、河田貞治（会長）、渡辺善作伊（副会長）、菱沼武美（同）、馬籠信幸、金井君枝、小林 宏、小林秀光、中村ヤス子、田中タイ子、染野喜一、元木圭一（以上

委員）、新倉善三郎（会計）、池田年江（監事）、館野 忠（同）、戸室文子、和久 誠（以上学校側）（戸室文子 記）

「四条流包丁式」に 参列して

三年 小野瀬 恵 子

宇都宮ロイヤルホテルで、栃木県調理師会三十五周年記念の「包丁式」が行われた。調理師の卵のような私たちは、運良くそれに参列することができた。学校から歩いて、約二、三十分、宇都宮ロイヤルホテルに着くと、調理師さんらしい人たちが、背広を着て、ロビーにいた。私たちも緊張気味で、ロビーで式典の開始時間を待っていた。式典会場へ行くと、すでに大勢の人が席に座っていました。何となくその中へ混ざると、ちょっと偉くなったような気がした。司会の方が説明し始めて、いよいよ包丁式が始まりました。舞台には、大きな儀式用のまな板が



包丁式

置かれた。白い布が敷いてあり、その上に、赤、黄、白、緑、紫の布の小さな包みが置いてあった。第一介添いと第二介添いの方が、黒の紋付き袴を着て、舞台の両わきに座り、その次の第三介添い、第四介添いの方はえぼしをかぶり、聖徳太子が着ていたような服を着て、三方を持って包丁やおはし、鯉などをもってきました。この四条流包丁式というのは、室町時代から継承してきたものとかで、昔の調理師が、

魚を包丁とはしだけで卸して、公用の意味をもって天皇に献上するといったものである。介添いの方の服装や、バックを流れる笙(しょう)の音楽で、室町時代にタイムスリップしたような気分になってしまいました。包丁師の方もえぼしをかぶり、聖徳太子のような服装で出て来ました。右手に包丁を持ち、左手にはしを持って、大きく黒く光る鯉を切り始めました。細く長いはしで鯉をしっかりと押え、大きくキラリと光る包丁は、鋭く鯉の体に切り込んでいく。包丁師の手捌きは見事で、とまどいも失敗もなく鯉を卸ろしてしまいました。途中、切りながら、包丁とはしを、合わせた大きく回したりして、舞を舞っているように見えたところもありました。その見事な演技に私たちはすっかり驚いてしまい、またとても感動しました。切った鯉をそばで見たら、とてもきれいな切り口だったし、包丁も本焼きのもので、かなり値段の高いものらしいようです。私たちがとても真似のできるものではないと思いました。

この「四条流包丁式」は、何十年に二、三回位しか行なわれず、めったに見られないものらしい。その「包丁式」に参列できたことは、一生に一度の、めったにない事だと思ひ、とても嬉しく思いました。今まで調理科で、料理について勉強してきたけれど、やはり自分で見て学ぶということは、素晴らしい事だと思ひ、また、今までよりもさらに、料理や調理師という仕事に興味を持てるようになりました。もう二度と見られないかもしれない「包丁式」を、しっかりと頭の中に詰めこんで、これからも調理の勉強をやってゆきたい。

包丁式を見て思う

三年 島田 孝男

ただ魚を卸すのではなく、一つ一つの動作というものが、とても難かしく、その動作を覚えるのが大変だったろう。しかし、自分たちの見ていた所が後のほうだったので、十分には見えなかったのかもしれない。残念だった。もう少し前のほうだったら、やっている人がよく見られたので、よくやり方などがわかっただろう。式が終わって卸した魚を見た。初めは三枚に卸して刺身みたいに切っているのだと思っていたが、全然ちがって、いろいろな切ったのをまな板の上にならべてあっただけだった。パッと見たときに、「なんだこんなものか」と思ったが、良く見て、良く考えたら、やはりすごいと思った。なぜなら、「はし」と「包丁」でやったというところだ。自分が使ったとしても、あのようにはできないだろうと思った。また、包丁を見てもすごいと思った。どことなく普通の包丁とは光沢がちがうといった感じだった。係りの人に聞いたところでは、この包丁は日本刀を作るのと同じ材料を使っているのだとい

っていた。そしてその値段は、一人前の調理師の半年分の給料ぐらいだといっていたのは大変おどろいた。近くで包丁をよく見たが、鯉のかたい骨を切っているのに刃こぼれ一つしていなかった。自分が使っている包丁なんか、少し太い骨を切っただけでも刃がちががちゃにこぼれてしまう。包丁も違うせいかもしれないが、やはり腕がちがうのだと思つた。

自分もこれから板前という道に進むわけだが、中途半端な板前ではなく、この包丁式で魚を卸すような板前になりたいと思つている。今回、この包丁式を見られて本当によかった。

岡本君(一年)が最優秀に

栃木県青年会議所 懸賞論文に入選

栃木県青年会議所では昨春秋に「二十一世紀へのメッセージ」と題して、広く高校生から論文を募集しましたが、多数の応募作品の中から、一年八組の岡本耕太郎君が最優秀賞に選ばれまし

た。岡本君は現代の世界、社会の諸問題を一つ一つ掘り起こし、それらにいかに対処していくべきかを論じています。次に全文を掲載します。

21世紀に向けて

何をすべきか

一年 岡本 耕太郎

今から16年後に来る21世紀。21世紀へ向けて生きていく一人として、次の世代もまた素晴らしい時代であることを願わずにはおられません。それは人類の限らない英知と努力によって必ず実現できるはずで、しかし今の世界においては極く些細なことで核戦争が起こるかもしれないし、食糧危機や自然破壊などによっていつ人類の破滅の時が来るか予測できません。現在の日本は平和で自由でその上繁栄しています。このような社会は今後も維持していきたいと思ひます。

現在日本は明治以来百年にわたる教育への熱意と努力、そして第二次世界大戦後の平和と安定によるものでその結果が、アメリカに追い追いつき越えと国民全体が努力してきた歴史のもとに成り立っています。

しかし今このような繁栄の歴史を築いた時、新たな問題が生まれてきたのです。それはアメリカを中心とする世界各国との経済摩擦の問題なのです。現在我々日本人の生活は、世界に目を向けずにはいられないのです。日本人の生活に欠かせなくなった「石油」ですが、用途としては、発電、冷暖房用、自動車等の燃料、我々が日常身につけている衣料品、プラスチック製品、その他生活の隅々に浸透しているのが気付かないものが多いくらいです。このように生活に欠かせない石油を100%近く輸入しているのですから。

以前は、自分の周囲の問題にだけ関心をもっていたればよかつたようですが石油をみてわかるように、世界のどこかで起こった小さな出来事でも充分我々の生活に影響を与える可能性を持っているのです。

幸い二度のオイルショックやドルショックなどを乗り越えて来た日本ですが、今後はグローバルな立場で物事を考えていかねばならない時代なのです。現在の世界的な重要事項を挙げてみますと東西問題、南北問題、宗教問題、食糧問題、また熱帯雨林に代表される自然破壊などが挙げられます。東西問題といえば、東西両陣営の指揮をとる米ソの対立を中心とする問題。しかしこの問題は南北問題の深刻な朝鮮半島、ベトナムといった地域に大きく影響していることに注目したい。記憶に新しいベトナム戦争などはアメリカが十年近くベトナムで戦闘を南側として行っていた。一方のソ連は北側に武器などを流していたと言ったことだ。朝鮮半島も似たような過去がある。結局もう一つの東西問題と言えるのではないか。また南北両半球の経済格差をどう縮めるかと言う問題もある。

てよく知られています。この他アフリカの食糧危機、主に発展途上国の人口増大地域における食糧不足の問題です。アフリカ諸国は、国土の砂漠化や干ばつなどの被害が深刻で農業生産が落ち込み多くの人が難民となって都市へまたはどこかかといえど豊かな国へと流れこんでいきます。これは社会的な問題だけでなく自然環境の問題が深いと思います。また熱帯雨林の減少が深刻な東南アジア、アマゾン川流域などでの大規模な森林伐採も問題となっています。これは地球全体の気象に影響を与えていると思います。突発的にやってくる異常気象の原因の一つに入るでしょう。またアフリカにおける干ばつの一因になっているかと思えます。

信条などが違ってくる。それは自分が当然と思っていたことも相手にとっ ていやな思いをさせる事があったとしてもその気持ちがお互い理解できないことがあるからです。食糧問題にしても現在我々は世界各国から食糧輸入を迫られています。そこで我々は食糧がまわっているのではないかと思いがちです。しかし、極く限られた地域を除けば食糧は不足しており多くの地域においては食糧不足が問題になっています。最近マスコミが取り上げるようになってきた熱帯雨林の減少を中心とする自然破壊。東南アジアでは、ラワン材、チーク材を中心として主に広葉樹が輸出されており、アマゾン川流域では焼き畑の拡大や開発による森林伐採など。そこでなぜそういった問題を解決出来ないのかと言えば、国内が工業化されていないために外貨を主に一次産品の輸出で得ているからです。だからこれらの行為を禁止せよというとしてもその地域の人々の生死に関わる問題だからなのです。

また、文明社会における都市のコンクリート化や化学燃料による大気汚染や水質汚濁などの問題も解決していかねばならないのです。二十一世紀を素晴らしい時代とするためにはまず核戦争だけは絶対避けなければなりません。それと共に宗教やイデオロギーの対立からくるテロや各地で起こっている限定戦争も避けなければなりません。全ての争いというものはそれが終わった時は、「なんて馬鹿なことをしたのだろ。」と思うのだが、それが当然なのである。それは過去の戦争に「正義」がなかったようなものだから。

戦争が始まる時これは決まってお互いの気持ちを理解できないために発生します。このことは例えば毎日一緒に生活している兄弟や親しい友人とさえ時々ケンカをします。しかし兄弟や友人とならともかく国と国との間の戦争となるとそうはいきません。なぜかといえど国と国との間ではお互いの気持ちを理解し合うのは時間がかかるからです。しかし時間をかけて話し合いますれば必ず理解し合えるようになる

はずです。またそれ以前に話し合いに時間をかけることです。そのためのロスは戦争によるロスよりはるかに少なくてすむものなのです。我々は勉強することで多くの知識を得、出来るだけ多くの機会を得て、多くの人々と接し理解を深めていきたいと思えます。学校の勉強でも地理や現代社会などの学習は大切だと思いますし、新聞、テレビ等で時事問題の知識を深める事も必要です。私自身も出来るだけ国際交流を組んでいきたいと考えています。

人類は地球上に生命を得て以来食糧の確保のため努力を重ねて常に食糧を安定的に確保したいと願って工夫をしてきました。しかし今、世界全体を見わたしてみますと、重大な不足が起きています。全体のバランスをみてみると不足基調です。そこで人類はより豊かな食糧を得るために自然界の動植物の中からよいものを選び出し家畜や作物として利用して来ました。そして今世紀に入ると、メンデルの法則を利用して積極的に優良品種間の交配が行われ次々に新品種を開発しそれを利用

してきました。更に最近では放射線を利用して人為的な突然変異種を作ったり遺伝子組換えや組織培養によるクローン利用など様々な技術を応用して新品種を作り出すようにして成功しているようです。これらの技術は更に発展させて人類のために役立てていかなければなりません。我々が生きていくためにはそれなりの自然環境が必要となります。空気や水は清らかで適当な気温と雨が必要となります。しかし現在それらの良好な環境を破壊する重大な事が起こっています。何度も挙げています熱帯雨林の減少です。

自然は一度破壊されてしまうととに戻すのは不可能に近く、もし出来たとしても長い年月が必要です。このことは世界の古代文明の発祥地が現在砂漠同然になっているのをみてもわかると思えます。また熱帯雨林では、強力な太陽光線による有機質の分解と多量の雨のため土がやせて砂地となってしまう、二度ともどもどれなくなくなってしまっています。したがって十分な配慮のもと

に手を入れても駄目なわけです。しかし、そこで出来るだけ最小限に被害をとどめるためにはどうしたらよいかを考えてみると、これは絶対植林が必要です。

一般に森林資源のように再生資源は再生可能な資源なので、利用したら植林するという習慣を義務づける必要があると思います。

二十一世紀を素晴らしい時代とするためには、我々は地球的な規模で環境問題を考えなければなりません。発展途上国諸国の経済成長に伴う国内の安定、政治的な安定がなされなければ相変わらず今の状態が続き今後さらに悪化するかもしれません。

しかし森林を伐採したら植林するということが重要だと思います。植林は直接的な経済効果はないものの、地球の環境を保全する最も大切な方法だと思います。

現在の日本は平和で自由で豊かです。そこで受験戦争、交通戦争、経済摩擦などと言っているけれど、いずれにせよ贅沢な悩みだと思います。日本の歴史はじまって以来最も安定した豊かな

時代であると思います。そして我々の時代となる二十一世紀がもっと良い時代になることを願っています。そのためには、すでに述べたような事柄を一つ一つ解決していかなければなりません。しかし無知と無理解、相互不信によって重大な事件が起こらないという保障は全くありません。我々はそれらを防止するために細心の注意を払わなければなりません。

当面は、勉強することによって知識を広め、あらゆる事態に対処出来るよう努力したいと思います。

優秀賞

第32回「国際理解・国際協力のための高校生主張コンクール」栃木県大会

少し勇気をもってみませんか

二年 佐藤尚美

皆さんは、外国の方と接した事がありますか。もし急に話しかけられたらどうしますか。そしてあなたは、自分

から話しかける事ができますか。なんだそのくらい……などと思う人もいるかもしれませんね。一見、時代の質問に聞こえるかもしれませんが、しかし、いざ、という時に、私達日本人の多くは、しりごみしてしまうのが事実ではないでしょうか。でも、それではいつまでたっても、国際的な感覚は身につけませんし、外国の方に誤った日本人の印象を植えつける結果にしかありません。

私が現在住んでいる日光市は、世界各国から毎年沢山の人がおとずれる有名な観光地です。それで、外国の方と接する機会はとても多く、私も何度か経験した事があります。初めて外国の方と接したのは、中学二年になって間もない頃でした。その時の事は、今でもはっきり覚えていてるのです。

あれは、買い物帰りでした。赤信号を待っている時、横断歩道に向こう側で、一人の外人がウロウロしている姿が目に入りました。見たところ、とても困っている様子でした。信号が青に変わり、渡り始めると、その外人は私に気づき、話しかけてきたのです。

験でした。

皆さんの中にも、外国の方と接するのをためらって、せつかくのコミュニケーションの場を、自分からのがしてしまっている人はいませんか。それではいつまでたっても「日本」という島の住人からは、ぬけだせません。

少し勇気をもってみませんか。そして今度そういう機会があったら、ぜひともあなたの方から、思い切ってコンタクトをとってみてください。もし、言葉がわからなかったら、身ぶり、手ぶりでも尻ごみしないでほしいのです。一生懸命になれば、きっと心は通じるはずですよ。

私は、あの「ユースホステル事件」のあと、ちよびり英語力も上昇のきざしを見せ始めたのです。しかし、そんな事よりも、もっと嬉しかったことは、小さなカラに閉じこもっていた自分を、大きな世界に運びこんでくれる「勇気」が身に宿ったことです。

その後、度々、外国の方とお話する機会がありますが、私は、私に住みついた「勇気」を十分生かして、コミュニケーションを続けております。

当時の私の英語の知識では、何を言っているのかさっぱりわかりませんでした。しかし、最後の方で「ユースホステル」という単語が、わずかに聞こえたのです。御存じの方もいらっしゃると思いますが、日光にみえた外国の方は、このユースホステルに宿泊することがほとんどなのです。その人もどうやらユースホステルに行く道を聞いている様子でした。さて、ただでさえ英語が苦手な私。どうやって説明したらいいのか、本当に困ってしまいました。自分の気持ちを伝えようとしても、うまく表現できません。気持ちがあせればあせるほど、頭の中がカラまわりしてしまいます。「どうしよう。何もわかりません、って顔をして、知らんぷりしちゃおうかな……。」私は一瞬のうちに、そんな事を考えていました。皆さんだったら、どういう態度をとるでしょうか。しかし、どこからか、こんなささやきが聞こえたのです。「逃げだしたため。困っている時はお互い様じゃないの。あなたが道に迷ったらどうするの?」と。「そうだ、ここで逃げだしたらしたら、これから

も、ずっと外国の人を見るたび、コンソしてしまおう。ヨージ、一か八かだ。」その時は下手に英語で説明するのをやめることにしました。そして、その外人の手をとり、さっさと歩きだしてしまっただけです。彼はあっけにとられていた様子でしたが、私は一生懸命だったのです。しかし彼は、すぐに、私が目的の場所まで案内するつもりなのだ、と理解してくれました。十五分ぐらい歩いたでしょうか。ユースホステルが見え、「あそこです。」と指をさし、一礼をしてもどうとうとした私に、とてもきこえない日本語でこう言ってくれました。

「たすかりました。あなたのような方初めてです。本当にありがとうございます。感謝します。」と。彼の言葉はどれだけ嬉しかったことでしょうか。冷静に考えると、私は彼に対して本当に当たり前の事をしただけなのに、彼は私に、自信と勇気という素晴らしいものをあたえてくれたのです。私こそ彼に感謝しなければなりません。これがコミュニケーションというもののだろうか……。とその時思いました。とても貴重な経

会長に松岡氏(再選)

PTA総会行われる

昭和六十年度PTA総会は六月一日の土曜日に本校講堂で開かれました。前年度の事業報告、収支決算、新年度の事業計画、同予算案などが審議された後、次の役員が選出されました。(敬称を省略させていただきます。)

(昭和六十年度役員)

会 長	松岡 祐 祥
副会長	篠崎 キミエ
会 計	植木 政 行
会計監査	大根田 六 郎
顧問	山越 彦 誠
顧問	河田 貞 次
顧問	大川 勝 也
顧問	中尾 雄 三郎
顧問	須賀 淳 三
顧問	高山 源 吉
顧問	岡田 喜 三

幹 事 川 出 弘
 三 矢 静 江
 常任委員 上 原 政 敬
 以下百二十一名

今回は宮城方面へ

PTAの研修会

PTAの研修会は九月十五日と十六日の両日、連休を利用して行われました。この催しは会員の親睦と勉強を兼ねて毎年行われていますが、今回は十六回目。顧問の須賀校長先生や松岡会長をはじめ、会員多数が参加して盛況でした。

コースは、十五日朝九時学校を出発、白石―磐梯ドライブイン―大和―石巻市泊り。十六日は小牧有料トンネル―女川ゲート―コバルトライン―大六天文展望台―大原ゲート―鮎川ステーションをへて再び石巻市にもどり帰途へ、というものでした。

宿舎では、夏休みのPTA支部の持ち方や、PTA役員研修旅行の持ち方について熱心に話し合いが行われました。

たが、次回からはPTAと各科後援会の研修会を一本化して行うことになりました。

PTA支部会開かれる

今年度のPTA支部会は、例年のおり八月一日から十二日まで行われました。その間、高文連の手芸クラブ全国大会が宇都宮市文化会館で開かれたため、七日と八日の両日はそちらへ出席しなければならぬ先生方が多かったため、支部会は休みになりました。日程は一日から三日までが合同宇都宮PTA支部会、五日から各地に出向きました。

●五日午前 上三川・南河内・石橋・国分寺・壬生・南大飼地区(石橋中)
 ●午後 古河・野木・小山・間々田・結城・下館・埼玉地区(小山中)
 ●六日午前 芳賀・茂木・真岡・益子・二宮(本校)
 ●午後 古里・田原・上河内・氏家・高根沢・鳥山(阿久津中)

●九日午前 鹿沼・栗野地区(鹿沼東中)

●午後 栃木・安足佐・芳賀・西方(栃木南中)

●十二日午前 西那須野・黒磯・矢板・塩谷(矢板中)

●午後 日光・今市(今市中)

出席された父兄の方々は、校長先生から最近の学校の内容、施設など詳細にわたっての現況をお聞きし、担任の先生との面接を行ない、毎年このことから有意義な支部会だったとの声が聞かれました。

当日、生徒の作文もテープで紹介され好評を得ましたが、その一つを紹介いたします。

私の希望

三年 吉村 玲子

高校生活も三年目になって、いよいよ卒業です。この三年間、様々なことがありました。概していうと、充実した高校生活だったと思います。入学時の、あの不安な気持ちはすぐに消えましたが、三年間があっという間に過ぎ

ていく様な気持ちです。

先日のホームルームで担任が、「与えられた環境を否定ばかりしていると何も得ることができない。与えられたものに満足して、それに自分に対応させていかなければいけない。」という意味のお話をなさいました。本当にその通りだと思います。あの時の先生の言葉にハッと目が覚めた感じがしました。というのは私自身の中に、現実を否定し続けていた部分があったからで、あの言葉は私のためのような言葉に思われて、あれ以来ずっと思いついては自分の教訓にしています。世の中を否定した目でみると、肯定した目でみるとでは大きな違いがみられるのは驚きです。「現実には確かに対象的なものである。」と認識してからの私は、環境に順応していく生き方こそ積極的・自主的な生き方だと考える様になりました。私は自分の出し得る力を出し尽くして、高校生活三年間の有終の美を飾ろうと決心しました。現実には現実なんだという簡単なことに時間をかけたように思いますが、最近では厳しい大学入試を目前にして、机に向かう

ことが楽しいし、精神的に満足できる毎日です。

今、机には、春休みに行った修学旅行の写真が置いてあります。皆、幸せそうに現在を楽しんでいる顔です。何を思っているのでしょうか。みんなだっさり辛いことや悲しいことがあったはずですが、生きていく限りそれはつきものではないかと、写真の顔はみな希望に満ちていて充実している顔です。それは人生は苦しみや、悩みの連続だけではないことの証でしょう。これから先、今まであったような、いやそれ以上に大きな困難がふりかかると思いますが、それは「生きていく」という意味であって、そんな時でも決してあきらめたり、成るがままになるといった姿勢ではないかと思えます。

私は先日、十八歳になりました。十八歳といえは大人です。人に頼ってばかりはいられません。自分の意志でしっかり生きていきたいと思えます。逃避も時には許されるでしょうが、それは安易な生き方で、積極的に生きるためには、今ある自分を認めて、力一杯努力することが大切だと思います。

学友会の奉仕活動

参加して下さい

宮の原・宝木支部

あなたは「学友会」とは何だと思えますか。字の通りだと「学校の友達の家」か。確かに同じ学校だった友達の集まりです。しかしそれだけではどうか。「友」という字は二つの手の形。互いに手助けし合うことを表わし、そこから志を同じくする友人をいうのです。漢和辞典を引けばわかりますが「友」には「共同して仕事をする」という意味もあるのです。つまり「学友会」はただの友達が集まりではなく、友達と共同して何かをやる会なのです。何かの役に立つことを皆でやる会なのです。こんな事を考えて参加している人はほとんどいないでしょう。事実私も、支部長にならなかつたら、何となしに参加していたでしょう。ですから、皆



2年 笹沼純子

生きていく限り失敗は常にあるでしょうし、その結果絶望することもあるでしょう。かといって、失敗をおそれては何もできません。今ある自分を一杯生きるためにも、現実をしっかりとみずえて、そこにある現実を自分のために生かすように努力していきたいと思えます。逃避や否定からは何も生まれないでしょうし、それでは自分自身、毎日楽しく明るく生きていくことはできないでしょう。

数か月に迫った卒業を意義のあるものにするため、力の限り頑張った後輩の為に新しい道を切りひらかなければならないと思っています。

新しい意見の導入を

陽西支部

私達陽西支部は、顧問の森幹樹先生、菊田民子先生の御指導のもとで、一年生から三年生まで総勢八十四名から成り立つ大所帯な支部です。

これほどの人数がいるのだから活発な意見交換がなされるか、というところ、そういうわけでもありません。なぜなら、八十四名全員が一つの教室に入れないので、一年生だけの教室と、二年生だけの教室に分かれているからです。そのため、一年生は二、三年生の決めたことに従うだけで、貴重な意見発表の場がもてなかつたことは非常に残念なことだと思います。

陽西支部は毎年恒例のように、一、二学期は募金、夏休みは出校日を利用した護国神社の清掃を行っています。今年はそのに加えて、母校の定期演奏会での花束贈呈で、各自の負担をお願いしましたが、それらの活動に心よく参加してくれた人、また、そうでない人も、今後はどんどん新しい意見を出

積極的活動行方

姿川支部

し合い、人のためになるような奉仕活動を積極的にを行い、より良い学友会に発展させて下さい。

(副支部長・扇 麻紀)

我々姿川支部は、昨年より大幅に人数も増え、総数六十五名と、よきアドバイザーである永島利子先生と黒子仁先生とで構成されております。

毎年、全員が募金をするだけにとどまっていた支部活動も、今年は、メンバーの趣向を凝らした活発な意見により、積極的な活動ができました。

ちとせ寮という老人ホームに、春は苗木と花の種を、そして夏休みには、麦茶を贈ったのですが、館長さんも大変喜んで下さり、奉仕の素晴らしさを肌で感じる事ができました。ただ、老人ホームへは、代表者数名だけしか行けなかつたのが残念です。次回からは全員が協力し、参加できる幅広い活動と、また老人ホームへの寄付も、今年だけで終えずに、姿川支部活動の一

望まれる新しい活動

一条支部

つとして続けて欲しいと思います。

この一年間、永島先生と黒子先生の御指導とメンバー全員の協力で、スムーズに楽しく奉仕活動ができました。これから卒業しようとする私達も、これらの活動を忘れずに、地域社会に貢献していきたいと思えます。

(支部長・神山 仁美)

我々一条支部は、人数の多い支部のひとつで、宇梶芳蔵先生、山形恵子先生の御指導のもと、できるだけ全員が積極的に活動に参加できるよう「一致団結」を目標に、話し合いを重ねています。今年は一学期の活動として、済生会乳児院へ雑巾の寄付、また夏休みにはアフリカ難民の救済に、少しでも役に立ちたいとの意見が多数出たため、読売新聞社を通して義援金を贈ることになりました。大所帯なために、なかなかふだんの連絡も徹底せず、決定したことを最後までまとめることが、支部長としていつも頭を悩ませている

編集後記

昨年の学校祭には校史室に「ひめまつ」の創刊号から第四号までが展示されましたが、皆さんはご覧になったでしょうか。創刊号は昭和二十二年三月十日の発行で、粗末なわら紙を使った、わずか三十ページばかりのものでした。それは今から三十九年前のもので、その歳月を物語るように、すでに黄色く変色しています。

内容は、今は亡き前理事長・校長の須賀友正先生が福寿草による春の訪れと卒業生を送り出すに当たっての心あたたまるお言葉や、現在の校長先生が「新憲法の基本理念」について執筆なさっております。

第四号から現在のサイズになり、ページ数も七十二ページにふえています。これらの一冊一冊に私たち学園の歴史と、今日を礎いてくれた諸先生や先輩のご苦労がうかがわれます。

その後は手塚武先生（栃木県文化功労者、元本校教諭）が長い間編集の指導にたずさわり、さらに現在は和久誠、山中晃子、菊田民子先生方を顧問にお迎えし、編集委員の協力で第四十号をお届けすることができました。どうぞ一人でも多くの方々に読んでいただきたいと思っております。

（編集委員長・田崎恵子）

校史と校章

今年11月には86年の歴史を刻む本学園の創立者、須賀栄子先生は、女子に最も適切な技芸を教授し、その時代と境遇とに順応すべき実際の婦人の養成を教育の主旨とし、共和裁縫教習所から、共和裁縫女学校、宇都宮須賀女学校、宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、発展されていきました。その後を須賀友正先生が受け継がれ、学制改革により、宇都宮須賀高等学校へ改正され、更に、宇都宮短期大学を設置し、高校も宇都宮短期大学附属高校へ改名致しました。しかし、昭和57年の9月1日にお亡くなりになられ、この後を受け継がれたのが、現校長先生でいらっしゃる須賀淳先生です。先生は、宇都宮短期大学附属中学校を設置し、様々な功績をあげ、現在に至っております。

我が校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉の意味は、生徒一人一人が、それぞれに、本校生徒としての価値を知り、その価値を自分で見捨ててはいけないという事です。「一人」という人間の価値を見逃すことなく、それぞれの価値を自覚することこそ、人間の大きな喜びであり、幸福への素材であるとし、学校は、その価値のあり場を認識して、そのあり方を勉強する場であるというのが、須賀栄子先生のお考えで、私たちは現在、この言葉を胸に、本校生徒としての価値を認識し、生活しています。

本校が、現在に至るまでは、いくつかの校章がありました。現在使われている校章の由来は、須賀学園の「ス」をカタカナ文字で表わし、3つ合わせたものです。

「ひめまつ」第四十号（非売品）
昭和六十一年三月一日印刷発行

宇都宮市睦町一番三五号

宇都宮短期大学附属高等学校

編集人 顧問 和久 誠

発行人 生徒会長 橋本 佳子

印刷所 宇都宮市鶴田町一三五九の一

ヤマゼン印刷株式会社

印刷人 山本 征一郎

発行所 宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

〒330 TEL〇二八六(34) 四一六一〜三番